

学校教育目標	「自分でできる(自主) みんなとできる(協働)」～主体的に学び、温かい人間関係を育む子どもの育成～				
	○自ら学び、互いに高め合い、「知」を構築する力を育みます。(知) ○礼儀や規範意識を大切に、他者を思いやる豊かな心を育みます。(徳) ○自他の命を尊重し、心身ともに健やかな子どもを育みます。(体) ○地域を大切に、社会の一員として協働する姿勢を育みます。(公) ○コミュニケーションを大切に、様々な変化に柔軟に対応できる力を育みます。(開)				
学校概要	創立 146 周年	学校長 佐藤 正淳	副校長 岸 俊介	2 学期制	一般学級: 19 個別支援学級: 3
	児童生徒数: 667 人 主な関係校: 山内中学校 中川西中学校 あざみ野中学校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	山内中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
コミュニケーション能力 自分づくり能力	山内中学校 山内小学校 新石川小学校 元石川小学校 美しが丘西小学校	○思いやりや感謝の気持ちを持ち、互いに尊重し合って生活できる子ども ○豊かに学び合い、社会の一員として自ら判断し、責任をもって行動できる子ども 「主体的な学びができる子どもを育てるための手立て・工夫」を取組目標に設定し、ブロック授業研等を通して情報共有をする。 ・児童生徒交流日に、6年生が中学校の授業を積極的に参観する。

中期取組目標	◆「チーム指導」と「組織的対応」で児童・保護者・地域から信頼される学校を目指します◆
	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかる授業づくり」に取組み、「思考ツール」を活用するなどしながら、学力の向上を図ります。 ・「山内小スタンダード/マナーブック」による指導やあいさつ運動を通して規範意識を高め、誰もが安心して通える学校づくりを進めます。 ・学級の壁を越えたチーム指導を行います。教科分担任制や交換授業、横割り授業を取り入れた教育活動を展開します。 ・山内小働き方改革プランを策定し、「教職員の元気が子どもの笑顔をつくる」という視点で改善に取り組みます。 ・「Y-NEXT」を打ち出し、学校での学びを社会や自らの将来につなぐことができるよう、企業等と連携した取組を進めます。 ・SDGsの視点から、学校教育と世界をつなぐ視野を広げ、子どもたちの意識を高めます。

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①学年で学習内容等を共通理解したり、専科や教科担任制の取組により、指導をそろえる。②自分の考えを分かりやすく伝えたり、友達の話をしっかり聞いたりするために、ペアやグループの活動を充実させる。③学習内容のつながりや他教科との関連を意識して指導することで、理解を深める。
担当 研究研修部	
豊かな心	①道徳の授業を通して豊かな心の育成を図りながら、児童の自尊感情を高めるとともに、受容的な学級、学校づくりを進める。②マナーブックを用いて、学校や地域の一員としてだれもが気持ちよく過ごすためにふさわしい行動や規範意識について継続的に指導する。学年で統一した指導になるよう年間で計画的に指導する。
担当 指導部	
健やかな体	①リズムジャンプの活動を通して、校庭の使用が制限されている中でも体を動かす機会を確保し、けがの防止につなげる。②けがの防止に向けては、学校保健委員会での取り組みとリンクし、全校で減らすような意識づけを行う。準備運動で、短時間で効果的な運動を考え、全校での取り組みをしていく。
担当 体育部	
特別支援教育	①特別支援教室実践推進校として、特別支援教室利用児童へのより有効な支援体制が構築できるよう、職員間で情報交換を密に行いながら、特性に応じた指導支援と、個に応じた合理的配慮の推進を図ると共に、職員研修を行う。また、保護者や関係機関との連携を図り、支援体制の強化を目指す。②山内スタンダードの徹底を通して、特別支援教育の面においても全職員が統一した指導を行えるようにする。
担当 特別支援校内委員会	
児童指導	①あったかハートな学校風土にするために、YPアセスメント等を活用した支援検討会を通して、関わる教職員が児童理解や学級の実態を共通理解する。横浜プログラムを継続的に実施し、社会的スキルの育成を図る。いじめ暴力等の行動に組織的に対応し、その後の見守りも複数の目で行う。
担当 児童支援委員会	
地域連携	①地域訪問や横浜の時間における教材研究を通して、地域の環境や歴史などの理解を深める。地域の人材や学習材に働きかけ、教育活動に取り入れて児童の「まち」に対する理解と愛着を深める。②学校・学年便り、HPなどによる情報発信とアンケートで意見集約を行うとともに、地域行事や懇談会で親睦を深め、地域・保護者と連携した「まち」に愛される学校を目指す。
担当 情報視聴覚部	
未来を開く志	①SDGsが示す17のゴールと学校教育活動を関連付け、世界とのつながりを意識した学習を教科等横断的に行う。②出前授業、学校地域コーディネーター等の活用から、外部機関や地域が世界とつながる活動をしていることに目を向けさせる。
担当 特別活動・児童会・クラブ担当	
働き方改革	①教職員一人一人が勤務時間に関する意識を改革し、時間管理の徹底を図ることで時間外勤務を減らす。②学校が作成する計画および組織運営に関する見直しを図り、業務の削減および適正化を図る。③外部人材やIT機器の積極的な活用を通して、働き方改革の実現に向けた環境整備を図る。
担当 総務部	
いじめへの対応	①YPアセスメントを実施し児童理解を深め、指導プログラムを計画的に行う。②児童いじめ防止委員会を定期的に開催し、児童、教職員、保護者、地域、各関係機関がいじめについて考える時間を確保し、いじめのない学校づくりに参画できるようにする。③定期的なアンケートや児童対象の教育相談期間を設定し、児童のSOSを早期に発見できる体制を作る。④あったかハートデーを活用して、いじめを未然に防ぐクラスの雰囲気を作る。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営	①メンターチームでの授業実践を学級経営や授業に生かすために、前期に授業研究会を設定する。②初任者を含め、学級経営や授業実践についての悩みや疑問点について話し合う時間を確保する。③外国語及び情報についての外部講師を招き、校内研修の充実を図る。
担当 総務部	